

令和6年9月27日

国土交通大臣
齊藤 鉄夫 殿

公益社団法人全国通運連盟
理事長 馬場崎 靖
日本貨物鉄道株式会社
代表取締役社長兼社長執行役員 犬飼 新

羽越線村上駅～間島駅間土砂流出による線路支障に伴う
トラック代行輸送について

平素は、鉄道コンテナ輸送および鉄道利用運送事業にご理解とご協力を賜り、まことにありがとうございます。

さて、9月20日から続いた新潟県から秋田県にかけての大雨の影響により、羽越線村上駅～間島駅間において道床流出が発見され、JR貨物の貨物列車は新潟貨物ターミナル駅～酒田港駅間で運転中止となっております。JR東日本によると復旧までには3週間程度の時間を要するとのこととです。

鉄道貨物輸送におきましては、九州・大阪と北海道・東北を結ぶ貨物列車は日本海縦貫ルートが主要路線となっており、上記区間においては1日当り往復850個（12ft換算）程度のコンテナが輸送されております。とくに、現在は北海道で収穫される馬鈴薯・玉葱等の農産品が本州各地に向け出荷される最盛期で、同線の役割の重要性が高まっている時期です。

JR貨物では、①太平洋側ルートを使う迂回臨時列車の設定（往復200個）、②新潟貨物ターミナル駅、酒田港駅をそれぞれ起点とする折り返し運転および新潟貨物ターミナル駅と酒田港駅間でトラックによる代行輸送の設定（往復120個）、③新潟港～苫小牧港間の船舶代行（往復160個）により、1日当り最大で往復480個の輸送力を確保する計画を立てております。

この計画により、トラックによる代行輸送は、JR貨物から全国通運連盟傘下会員（鉄道利用運送事業者）に代行トラック供出の協力依頼があり、全国通運連盟は、鉄道貨物輸送を確保するために、代行トラック供出について積極的に支援していくこととしております。

しかしながら、1日当り60台という車両を確保するには、長期間にわたって周辺他県からもドライバー及び車両を派遣する必要があるものと考えられます。さらに、現地は通常従事しているコンテナ緊締トラックが少ないエリアであり、遠隔の周辺他県からの車両の集約が不可欠となります。

今般の代行輸送において鉄道利用運送事業者は、運行管理（ドライバーの点呼、休憩仮眠施設の確保等）、および車両管理（派遣車両の整備、駐車スペースの確保等）を確実に実施して参りますので、貨物自動車運送事業者が遵守する貨物自動車運送事業法（平成元年法律83号）や道路運送車両法（昭和26年法律第185号）の規定及び「貨物自動車運送事業の事業用自動車の運転者の勤務時間及び乗務時間に係る基準」（平成13年国土交通省告示第1365号）の特例適用について、特段のご配慮を賜りたくお願い申し上げます。